ふりがな　　もり　たかひと

氏 名　　森 宜人

## 1. 学歴

2000 年　3 月　一橋大学社会学部卒業
2000 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程入学
2002 年　3 月　同課程修了，修士（社会学）
2002 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程入学
2005 年　3 月　同課程修了，博士（社会学）

## 2. 職歴・研究歴

2003 年 4 月 － 2005 年 3 月　日本学術振興会特別研究員（DC）
2003 年 8 月 － 2004 年 10 月　ギーセン大学歴史学研究所近代史第 1 部門客員研究員
2005 年 4 月 － 2006 年 3 月　一橋大学大学院社会学研究科助手
2006 年 4 月 － 2009 年 3 月　関東学院大学経済学部専任講師
2009 年 4 月 － 2012 年 3 月　関東学院大学経済学部准教授
2012 年 4 月 －　一橋大学大学院経済学研究科准教授

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### （a）学部学生向け

経済史 A，基礎ゼミ

#### （b）大学院

西洋経済史，ワークショップ／リサーチ・ワークショップ（経済史）

### B. ゼミナール

学部前期，学部後期，大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

「経済史 A」では，近代ヨーロッパを事例として，都市化や工業化など現代社会形成の基礎となる社会構造の変動をテーマに取り上げ，その前提となる政治的・文化的枠組みにも着目する。本講義では，ヨーロッパ社会の歴史的位相を把握するだけでなく，地域研究に必要な分析視角を社会経済史の観点から提示することを目指す。「基礎ゼミ」では，経済史の基本文献の輪読を行い，受講者に経済史研究の入門的な体験が出来る場を提供する。大学院の「西洋経済史」では，近代ヨーロッパ経済史に関する英語ないしドイツ語の専門文献の輪読を通じて，最新の研究動向に触れる機会を設ける。

学部のゼミナールでは，3年次の近現代ヨーロッパ経済史に関する文献の輪読と，4年次の卒論執筆を通じて，現代社会が形成された歴史的経路を把握するとともに，歴史学的な思考方法を涵養することを目指す。大学院のゼミナールでは，履修者の研究報告にもとづく論文執筆の指導に重点を置き，1 次史料に基づく緻密な実

証分析の方法を体得してもらう。

## 4. 主な研究テーマ

一貫した研究課題は，主に 19 世紀後半～20 世紀前半のドイツをフィールドとして，近現代ヨーロッパの社会変動を都市経済史の観点から把握することである。具体的な研究テーマは次の通りである。

（1）都市化と電力業の展開

フランクフルト・マム・マインの電力業の分析を通じて，都市自治体給付行政の歴史的特質を明らかにするとともに，都市への電力導入から電力の必需化にいたる都市電化のプロセスを辿り，近代都市形成の実像を明らかにした。この成果は，単著『ドイツ近代都市社会経済史』として上梓した。

（2）「社会都市」の政策理念

19/20 世紀転換期は，国家的社会保障が未整備な中，都市自治体が生活環境の物理的改善と社会政策の展開を通じて，住民に一定の生活条件を保障した「社会都市」の局面と位置づけられる。ドイツでは，「都市の社会的課題」とよばれる政策理念が「社会都市」形成の原動力となったので，この政策理念の思想的研究に取り組んでいる。

（3）都市失業保険の展開と「社会都市」・「社会国家」

ドイツで国家的失業保険が成立するのは両大戦間期のことであるが，都市レベルではすでに 1900 年代よりその萌芽がみられた。この都市失業保険の展開過程を，ベルリンなどの個別都市の事例に即して実態分析を行い，第一次世界大戦前後の「社会都市」と「社会国家」の重層的関係の解明を目指している。

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### （a）著書・編著

『ドイツ近代都市社会経済史』日本経済評論社，2009 年 2 月，1-276 頁。（第 5 回政治経済学・経済史学会賞対象著作）

#### （b）論文（査読つき論文には*）

*「ドイツ近代都市における自治体給付行政とその諸問題ーフランクフルト・アム・マインにおけるオストエンド・プロジェクトを事例に―」『一橋論叢』第 129 巻第 2 号，2003 年 2 月，93-108 頁。

*「フランクフルト国際電気技術博覧会とその帰結―近代ドイツにおける都市電力ネットワーク形成の一モデル―」『社会経済史学』第 69 巻第 5 号，2004 年 1 月，19-38 頁。

*「都市化時代の大都市と周辺自治体―世紀転換期フランクフルトにおける合併と電力網の拡張―」『一橋論叢』第 133 巻第 2 号，2005 年 2 月，138-154 頁。

*「ヴァイマル期ドイツにおける都市の電化プロセス―フランクフルト・アム・マインを事例として―」『社会経済史学』第 71 巻第 2 号，2005 年 7 月，49-70 頁。（第 2 回社会経済史学会賞対象論文）

「黎明期の都市電化―第二帝政期フランクフルトを事例として―」土肥恒之（編著）『地域の比較社会史―ヨーロッパとロシア―』日本エディタースクール出版部，2007 年 10 月，137-169 頁。

*「広域発電網確立期における都市電力業―ヴァイマル期フランクフルトを中心に―」『歴史と経済』第 198 号，2008 年 1 月，17-31 頁。

*「世紀転換期ドイツにおける都市政策理念―1903 年ドイツ都市博覧会を中心に―」『西洋史学』第 232 号，2009 年 3 月，23-43 頁。

「ドイツ社会政策学会における近代都市論―K.ビュッヒャーの所論を事例に―」関東学院大学『経済系』第 240 集，2009 年 7 月，24-42 頁。

*「『社会都市』における失業保険の展開―第二帝政期ドイツを事例として―」『歴史と経済』第 211 号，2011 年 4 月，3-12 頁。

*「ヴィルヘルム期ドイツにおける都市失業保険―大ベルリン連合を事例として―」『社会経済史学』第 77 巻第 1 号，2011 年 5 月，71-91 頁。

### （c）翻訳

ヴォルフガング・バウワー著／大津留厚監訳『植民都市青島 1914-1931 年―日・独・中政治経済の結節点―』昭和堂，2007 年 2 月〔共訳：第 1 部および第 3 部担当〕。

### （d）その他

「資料紹介『第 3 回ドイツ都市会議総会議事録（1911 年 9 月 12 日，於：ポーゼン）―議題「失業保険問題に関する声明」―』（1）～（5）」関東学院大学『経済系』第 243 -247 集，2010 年 4 月 - 2011 年 4 月。

「資料紹介 ドイツ都市会議調査報告：大戦勃発に起因する諸都市の給付事業についての暫定的概観―ドイツ都市会議本部報告書，第 4 巻第 18/19 号（1914 年 9 月）所収―」関東学院大学『経済系』第 252 集，2012 年 7 月，89-120 頁。

「電力が変える経済社会の風景―ベル・エポックのドイツ都市」一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣，2013 年 2 月，202-209 頁。

## B. 最近の研究活動

### （a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

「世紀転換期における『ドイツ都市の社会的課題』―1903 年ドイツ都市博覧会を中心に―」日本西洋史学会第 58 回大会自由論題報告，2008 年 5 月 11 日，島根大学。

「ドイツ都市会議成立期における『都市の社会的課題』」社会経済史学会第 77 回全国大会パネルディスカッション（組織者：馬場哲）「ドイツ『社会都市論』の可能性―『社会国家』との関係とその比較史的射程―」，2008 年 9 月 28 日，広島大学。

「第二帝政期ドイツ都市における失業保険問題―大ベルリン連合を事例として―」社会経済史学会第 79 回全国大会自由論題報告，2010 年 6 月 19 日，関西学院大学。

*『社会都市』における失業保険の展開―第二帝政期ドイツを事例として―」2010 年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会共通論題報告「都市の公共性―主体・政策・規範―」，2010 年 11 月 14 日，首都大学東京。

「世紀転換期ドイツにおける都市失業保険―『社会都市』論の観点を中心に―」近代社会史研究会第 242 回例会，2012 年 6 月 23 日，京都大学。

「書評：福澤直樹『ドイツ社会保険史―社会国家の形成と展開―』名古屋大学出版会，2012 年 6 月」ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2012 年 12 月 8 日，青山学院大学。

### （b）国内研究プロジェクト

「ドイツ『社会都市』における公共性の史的研究―『社会国家』との関係に着目して―」，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C），東京大学，2007 - 2008 年度，研究分担者（研究代表者：馬場哲氏）

「ドイツ近代都市社会経済史」，関東学院大学経済学会出版助成金，関東学院大学，2008 年度，研究代表者。

「近代ドイツにおける都市社会政策―失業対策を事例に―」，関東学院大学経済学会特別研究費，関東学院大学，2009 年度，研究代表者。

「20 世紀初頭ドイツにおける都市失業保険の展開―『社会都市』論の実証的研究―」，文部科学省科学研究費補助金若手研究（B），関東学院大学，2010 – 2011 年度，研究代表者。

「第一次世界大戦期ドイツの都市失業扶助―総力戦体制と『社会都市』―」，日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究（B），一橋大学，2012 – 2013 年度，研究代表者。

### （d）研究集会オーガナイズ

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2010 年 12 月 12 日，専修大学。

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2011 年 6 月 19 日，専修大学。

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2011 年 12 月 18 日，専修大学。

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2012 年 6 月 17 日，専修大学。

比較地域史研究会，2012 年 10 月 20-21 日，一橋大学。

## C. 受賞

第 2 回社会経済史学会賞（社会経済史学会，2006 年）

第 5 回政治経済学・経済史学会賞（政治経済学・経済史学会，2010 年）

## 6. 学内行政

### （b）学内委員会

附属図書館委員（2012 年 4 月 – ）

## 7. 学外活動

### （a）他大学講師等

横浜市立大学商学部・非常勤講師（2007 – 2008 年度）

東京外国語大学外国語学部・非常勤講師（2010 年度）

関東学院大学経済学部・非常勤講師（2012 年度 – ）

東京学芸大学教育学部・非常勤講師（2012 年度）

### （b）所属学会および学術活動

社会経済史学会

政治経済学・経済史学会（研究委員 2008 – 2011 年，編集委員 2011 年 – ）

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.）（事務局 2010 – 2012 年）

日本西洋史学会

現代史研究会（運営委員 2012 年 – ）